

初出場の全日本大学選手権に向け、闘志を燃やす八学大女子のメンバー



来月のバスケ全日本大学選手権

県内初 八学大出場

「決勝Tに残る」と闘志

バスケットボールの第74回全日本大学選手権(12月3～11日・東京都)女子に、青森県内の大学として初めて八戸学院大が出場する。主将の関口由佳(22)は4年、八学光星高出は「一戦一戦を大切に戦い、決勝トーナメント(ベスト24に残りたい」と意気込んでいる。八学大は昨秋の東北大学リーグ2部で優勝し、今年から6大学による1部に昇格。今秋のリーグ戦(9月2日～10月16日・八戸市ほか)では仙台大、東北学院大に次ぐ3位に入り、1部参入初年度で悲願の全国切符を勝ち取った。

現部員数は4年生8人を含む35人で、大半が東北地方出身者。平均身長166・7センチ。堅守速攻が持ち味で、今秋のリーグ戦では関口がリバウンド王、優秀選手賞に輝いた。全国大学選手権にはブロンズ予選を勝ち抜いた40大学が出場する。八学大は過去に同選手権優勝経験もある日本女子体育大(関東12位)、名古屋学院大(東海2位)と予選リーグで対戦し、1位になれば決勝トーナメントに進出可能だ。25日は関口主将らが八戸市庁に熊谷雄一市長を訪ね、本番での健闘を誓った。関口は「2対2や3対3など、少人数で試合を想定した練習に力を入れてきた」ときっぱり。副主将の今井詩音(22)は4年、三沢商高出は「全員でリバウンドを狙う意識を持って戦う。走り負けないことが大事だ」と力を込めた。

(上村公悟)